

# 土浦市中心市街地活性化協議会

## 令和5年度通常総会

### 第24回会議議事録

日時 令和5年5月10日 午後1時30分  
会場 土浦商工会議所

#### 通常総会

##### 1. 挨拶

##### 2. 議事

- 議案第一号 令和4年度事業報告
- 議案第二号 令和4年度収支決算報告
- 議案第三号 令和5年度事業計画（案）
- 議案第四号 令和5年度収支予算（案）

#### 第24回土浦市中心市街地活性化協議会

##### 1. 報告事項

- (1) 令和4年度通常総会並びに第23回土浦市中心市街地活性化協議会について

##### 2. 協議事項

- (1) 土浦市中心市街地活性化基本計画進捗状況について
- (2) 令和4年度土浦市中心市街地活性化基本計画の定期のフォローアップに関する意見書報告について
- (3) 第3期土浦市中心市街地活性化基本計画の策定について

#### 配布資料

- 資料① 土浦市中心市街地活性化協議会令和4年度通常総会、第23回協議会（書面決議）結果について
- 資料② 土浦市中心市街地活性化基本計画 事業進捗状況一覧
- 資料③ 令和4年度土浦市中心市街地活性化基本計画進捗状況
- 資料④ 令和4年度土浦市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告
- 資料⑤ 第3期中心市街地活性化基本計画の策定について

開催日時  
開催場所  
出席者数  
出席者名

令和5年5月10日(木)午後1時30分より  
土浦商工会議所  
委員18名

- ・中川喜久治(土浦商工会議所会頭)
- ・塚原 建(土浦商工会議所青年部会長)
- ・石田百合子(土浦商工会議所女性会監事)
- ・塚本 隆行(土浦市都市政策部長)
- ・佐藤 亨(土浦市産業経済部長)
- ・関 和郎(土浦商店街連合会副会長)
- ・川野 重匡(東日本旅客鉄道(株)土浦駅長)
- ・横山 恭教(NPO 法人まちづくり活性土浦理事長)
- ・高中 紀博(土浦市地区長連合会副会長)
- ・篠 捷子(土浦市女性団体連絡協議会副会長)
- ・清水 勉(土浦市金融団)
- ・内村 尚史(土浦市金融団)
- ・佐藤 之則((公社)茨城県宅地建物取引業協会土浦・つくば支部幹事)
- ・池田 正(水郷つくば農業協同組合代表理事組合長)
- ・高木 節子((一社)霞ヶ浦市民協会副理事長)
- ・永井 昭夫(茨城県建築士会土浦支部副支部長)
- ・寺田 賢((一社)茨城県ハイヤー・タクシー協会県南支部会計)
- ・平元 政範(土浦都市開発(株)総務部長) ※代理

#### 監事

- ・新福 典子((一社)土浦市観光協会専務理事)
  - ・高橋 盛之(茨城県産業戦略部中小企業課経営支援室長)
- (土浦市)
- ・福澄 雄祐(都市整備課長)
  - ・石引 康博(都市整備課長補佐)
  - ・長坂 英治(まちづくり推進室長)
  - ・藤澤三智彦(まちづくり推進室主幹)
  - ・伊藤 大祿(まちづくり推進室主幹)
  - ・沼尻 健(商工観光課長)
- (事務局：土浦商工会議所)
- ・松井 修一(専務理事)
  - ・加賀美吉彦(事務局長)
  - ・寺田 英明(商工振興課長)
  - ・菅原 伸司(商工振興課長補佐)

## 1. 挨拶

(中川会長)

### 会長挨拶

皆さんこんにちは。本日はご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本協議会の会長を仰せつかっております、土浦商工会議所会頭の中川でございます。

五月晴れで大変清々しい日を迎えられて非常に心もウキウキする気持ちもございますが、皆さんにおかれましてはゴールデンウィークの大型連休明けということで何かとお忙しい中、こうして土浦市中心市街地活性化協議会にご参加いただいたこと、非常に嬉しく思っております。

コロナの終焉に向かっております中、ゴールデンウィークも人が出て、人の勢いというのはパワーが違うんだと改めて感じるところでございますが、その中で色んなことがありました。バッキンガム宮殿でイギリスの国王が戴冠式を迎えたのも歴史絵巻。我々からしてみたら平安絵巻って感じの昔からの伝統で、こういうことができるのかってことを改めて知ったことが別感にあったのですけども、やっぱり何と言っても WHO が世界的なパンデミックに対して、緊急事態宣言を解除したってことは大きな世界的な意味合いもあるのだろうと私は感じております。

我々も是非アフターコロナっていう形に繋がってくれればと思うのですけども、もう一つ我々としては土浦のまちに生活している或いは仕事している者にとって明るい話題っていうのは、何と言っても茨城県の政策の中で TX のですね県内の延伸が 4 ルートの中で 1 か所に絞られるっていうこともですね、特別委員会の決定が知事に答申されたってことで、4 ルートの中で県内としては土浦ルートと言うのですかね、その方向性で行くっていうことで現在、パブリックコメントというのを今やっている最中でございます。皆さんにおかれましても色んな形でご参加いただく中で、土浦に延伸することの素晴らしさとか大変さとか色んな問題点も含めてパブリックコメントにご参加になることは非常に有意義なことだと思いますので、中心市街地活性化協議会のメンバーとしてもそういうことに参加していただければと思っております。

かれこれ 11 年を過ぎようとしていると思いますが、土浦市中心市街地活性化協議会ができて、何をしようかって時にですね私が協議会の会長になって一番感じたのは、範囲が土浦のまちを根本的な前提条件として土浦市の中心市街地は何だという時に、土浦港から亀城公園までっていうシンボルがあるのですけど、この地区でしか無い、また、湖が中心市街地にあるまちってのは土浦だけじゃないかと思うぐらいのことを活かせる形で、市も県も国も一緒になって土浦を、霞ヶ浦を意識しようということやってきたことも非常に大きな意味があったことなんだろうと思っております。

活かせる形という、この辺でいうとひたちなかの海浜公園のネモフィラだと思うのですが、私はひたちなか海浜公園のネモフィラにはいつも思うところがありまして、あそこはもともとアメリカの射爆場で、昔アメリカが日本を占領した時に射爆というか爆弾を装填したり外したり、それを打って練習した場所を日本に返還されたわけで、その跡地をどうしようかという時に 1 年に 2 回楽しめるネモフィラやコキアを毎年植え替えているんですね。もともとそういう射爆場の場所だったということで観光客が訪れるのではなくて、そこに無い物を市民、県民、国民の力で観光地にしたってことあがるのですが、あれは我々の税金でそういうものを作ったってことは大きなことです。極端に言えばこれは民間ですけど牛久の大仏は、今は大変な茨城の景勝地のような感じになっておりますけれども、無い所に大仏を作ってそこに観光客が来るってことで、無いから駄目じゃなくて皆さんが理解できて、利用できるものを作っていければ、それが新たな観光地になれるということもあるってことを忘れてはいけません。

TX もそうなんです。つくばから土浦に繋ぐということで、どれだけの計画があるのかって

単純に言われてしまうかもしれませんが、茨城県には常磐線という大きな動脈があります。そしてTXっていうまた新たな動脈ができてますが、途中で止まってしまってるんですね。最低その動脈同士が日本中の体力と言いますか、人の体としたら健全にエネルギーが体中を回するためには繋げなくては行けないというのは政策過程として、諸先輩方が政策過程として作り上げた部分があったことだろうと思っておりまして、何とか早く、例えば土浦でなくてどこかに繋げていただくことが、政策課題としてあるべきものだと思っております。茨城県の思いを一つにした中で関東地区や国に皆の力で働きかけを活かしていく形になれば、非常に私は嬉しいことだと思っております。

このことは実は最初の中心市街地活性化協議会の中で、土浦駅にTXをという議論をしながらやっていたということのを非常に懐かしく思っておりますわけでございますので、そういうことを含めて、これからまた協議会が始まるわけでございますが、是非とも色々な角度から諸問題に対して皆さんからのお知恵を拝借して一緒に頑張りたいと思っております。

話が長くなりましたが、あらためて中心市街地活性化とはということを含めてご挨拶させていただきます。

土浦市中心市街地活性化協議会通常総会及び協議会会議は、令和2年度から4年度の3年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議の形式で開催させていただいておりましたが、先日5月8日より感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行されたことにより制約が緩和され、今回実開催となりましたことを喜ばしく思っております。

さて、改めて申し上げるまでもありませんが、中心市街地活性化協議会は、改正まちづくり三法の下、新たな中心市街地のまちづくりに取り組む都市に設置される法定組織であります。

この法律では、中心市街地を商業の活性化だけではなくて、生活空間として位置づけ、社会的・経済的・文化的活動の拠点となるような、コンパクトで魅力ある市街地を形成することを義務付けています。

あわせて、国は支援地域の選定を厳正に行う「選択と集中」の仕組みを導入し、やる気のある市町村を重点的に支援することにより、活性化の「成果」を重視するようになりました。

言い換えますと、国の大きな支援を受けるためには、その土地の特徴を活かした計画づくりに本気で取り組むこと。生活圏を集約できるよう、様々な街の機能を集中させること。計画づくりは行政だけではなく市民が参画すること。このことをチェックする組織が中心市街地活性化協議会であるということだと思っております。

平成24年の設立以来、私たちもその自覚をもって、土浦の特色を最大限に活かし、効果的な計画を土浦市と一体となつてつくり上げるため、協議会を運営して参りました。

本日は、スタートから4年経過した第二期基本計画の進捗状況と、目標に対する達成状況、及び第三期基本計画の策定内容について土浦市から説明していただきます。

本日の会議は、全体で約90分を予定しておりますが、より多くの皆様のご意見をいただけるよう進めて参りますので、よろしく願いいたします。

最後になりますが、オブザーバーとしてご出席いただいております、茨城県産業戦略部中小企業課経営支援室長の高橋様に改めてお礼申し上げますと共に、本日もご教示賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

定足数報告  
(事務局)

規約の定める定足数を満たしている旨を報告。

## 2. 議事

(中川会長)

追加議案について議場に諮り、提出4議案を審議することを確認。

議案第1号令和4年度事業報告、第2号令和4年度収支決算報告について事務局説明後議場に諮り異議なく承認された。

議案第3号令和5年度事業計画(案)、第4号令和5年度収支予算(案)について事務局説明後議場に諮り異議なく承認された。

(閉会) 13時50分閉会を宣言し、引き続き第20回協議会会議を開催した。

13時50分 第24回土浦市中心市街地活性化協議会開会

## 1. 報告事項

(1) 令和4年度通常総会並びに第23回土浦市中心市街地活性化協議会について

資料①令和4年度通常総会、第23回協議会(書面決議)結果を配布して報告に代えた。

## 2. 協議事項

(1) 土浦市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について

第2期計画について、資料②資料③資料④について説明。土浦市中心市街地活性化基本計画70事業の進捗状況目標達成度を図るため毎年度1回のフォローアップが義務付けられていることから次の通り説明した。

(藤澤主幹)

「全体総括」

令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から全国的な外出自粛の傾向が続いたことで、各種イベントの中止や日常的な人々の往来の減少等、中心市街地のにぎわい創出が難しい状況であった。

しかし、令和4年度は、本市を代表する大規模イベントである「かすみがうらマラソン」や「土浦全国花火競技大会」が開催され、地域住民による公共空間の利活用等も見られるようになり、コロナ禍からアフターコロナへの着実な歩みを実感したところである。

また、土浦駅周辺では複数のマンションが建設され、中心市街地における住宅供給がされたことから、中心市街地への社会増が続いている。

そうした回復傾向はあるものの、中心市街地のにぎわいの指標ともなる歩行者・自転車交通量はコロナ禍前の数値まで回復していない。また、中心市街地における低・未利用地の解消等の課題も残っていることから、アフターコロナを見据え、民間事業者だけでなく地域住民とも連携し、引き続き、中心市街地活性化に資する事業を実施していく必要がある。

「資料②土浦市中心市街地活性化基本計画70事業の一覧」

○4章土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の試技愛知の整備改善のための事業

事業No.1 土浦駅前東西口エレベータ改良事業について、自転車が入れるよう改良。令和3年度から実施し令和4年度完了した。

事業No.3 亀城公園整備事業について、令和4年度の霞門の保存改修工事が完了した。

○6章公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業

事業No.22 土浦駅北地区市有地有効活用事業について、アルカス横の89戸のマンション建設計画だが、大和町地区では新たに195戸のマンションが建設された。

○7章中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街地商業活性化事業、その他の経済活力の向上のための7事業及び措置

本市の代表する事業№.36 花火競技大会、事業№.38 霞ヶ浦マラソン等の各種イベント事業について、令和3年度までは新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止であったが、令和4年度はこれらの各種イベントが開催できたことによりアフターコロナに向けて明るい兆しが見えている。

事業№.62 博物館利用推進事業について、現在大規模改修中で例年より特別展の開催が少なくなっており令和6年1月頃まで臨時休業の予定。

「資料③令和4年度土浦市中心市街地活性化基本計画進捗状況」

資料②における事業№.ごとの詳細を記載されているもので、後ほど参照いただくこととした。

「資料④令和4年度土浦市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告」

○休日のにぎわい創出（休日の歩行者・自転車交通量）

国の緊急事態宣言による外出自粛要請から減少傾向で目標値26,164人に対し最新値21,166人約5,000人の差が出ている。令和4年度は行動制限の緩和から微増傾向だが、令和5年度中の回復は難しいと考え目標達成は見込めないとした。

○商業・業務機能の活性化（新規出店・企業数）

令和3年度から4年度にかけて、ワクチン接種の普及や経済活動規制緩和により、また市の開業支援の活用により少しずつだが起業意欲を促進し少しずつ出店数が増えている。目標値は年平均13店舗、5ヶ年累計65店舗としており、令和4年度最新値が15店舗で基準値11店舗を上回り、令和5年度は目標達成が見込まれるとした。

○まちなか居住人口の増加（中心市街地居住者人口割合）

中心市街地の居住者が土浦市人口全体に対する割合を示しているもの。最新値5.42%に対し、目標値が5.56%と届いていない状況だが、理由として社会増を自然減が上回ったことによる居住人口の減。本数値は令和4年10月1日現在のもので、令和5年3月の数値だと5.54%、さらにはフォローアップから外れるが、4月1日時点は5.6%を記録しており目標を達成している数値になっていることから増加傾向であると捉え、今回の見通しとしては目標達成が見込まれるとした。

(2) 令和4年度土浦市中心市街地活性化委基本計画の定期フォローアップに関する報告に対する意見書について

(寺田)

過去2年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、目標達成が難しい状況であったが、第2期計画の4年目となる令和4年度は、イベント開催や亀城モールの公共空間の利活用等が見られるなど、今後は明るい兆しが見えてくると考える。

そのような中、本計画の進捗を判断する3つの指標を見ると「休日のにぎわい創出」については、外出自粛要請等の緩和により令和3年度と比較し増加傾向にはあるが、目標達成は厳しい状況にある。然しながら新型コロナウイルスが感染症法の位置づけが引き下げられることから、この機会を捉え、更なる交流人口増加策としてのサイクリング事業等の推進をお願いしたい。

「商業・業務機能の活性化」については、新規出店・企業数が落ち込んだが令和3年度以降増加傾向にあり、本年度も15件の出店があったことから、中心市街地への出店意欲のある起業家が今後も増えていくことが期待できる。

「まちなか居住人口の増加」については、令和2年度から3年度にかけて横這いであったが令和4年度は、自然減の影響によりわずかに減少している。しかし、11月の大和町北地区の195戸のマンション竣工による新規居住者が増え始めていることから、中心市街地居住人口

の更なる増加が期待できる。移住・定住を促進する事業並びにシティプロモーション事業を引き続き実施し、目標達成をお願いしたい。

第2期計画最後の年となる本年は、川口二丁目の土浦港周辺広域交流拠点整備事業への民間活力導入実現へ向け、更なる努力をお願いしたい。

今後の事業推進について、アフターコロナを見据え、当協議会としても、目標達成に寄与して参りたい。

(中川会長)

たたき台としての全体的な案を提示いただきましたが、全て関連しますのでどの方向からでも結構ですので、皆様からの意見をいただき、意見書を作成してまいりたいと存じますので意見をいただきたいと思います。

(篠委員)

本当にまちなかを人が歩いていないのは実感しております。それと空き地が増えたことと昼間歩いて見るお店が無いですね。特に若い人が。そういう意味では食べ物屋さん少し増えたようですが、夜は私歩いてないのでわからないのですが、夜はきっと明るくなっているのかなって感じがして、昼間の人口がもっと人の通りが増えるようなお店が増えるといいなと感じます。

それから、サイクリング事業を推進となりますと、サイクリングは湖側のほうになると思うんですね。街中に来るよりは。たしかに私の家は港町なんですけど、本当に土日は列をなして走っています。あの速さで街中走っているのはちょっときついというか危険もあると思うので、サイクリングが湖側になると、それでまちなかの駅前通りの賑わいとなると魅力あるものが何か無いと人は出てこないかな、外に行ってしまうんじゃないか、イオンが混んでいるようになって感じがするんです。魅力あるお店が何かあれば、それを起点にしてという感じで、テレビで見られるように何か一つ核ができると増えてくるというイメージがありますけれども、駅前に行ってみたいお店は無いかなという感じはしております。

(関委員)

確かにひとつの商店街がショッピングセンターのように何でも揃う場所は、どこにも無いんです。従って、あっちやこっちや虫食いに歩かないと全てのものが揃わないという現象は衰退せざるを得ない第一の問題点かなというふうには思っております。それともう一点は新規出店18店、では今の時点でそのうち何店残っていますかってことなんです。けっこう入れ替わりが激しいんですね。同じ場所で3回起業しているところもあるんです。ですので単に起業数だけでなく残存数を知りたいな。その原因を言えば篠さんが言うここに行けば何でも揃うという状況に無い。その要因はやはり車社会に適応しづらい街並みだってことがひとつあると思います。そのあたりをどうパワーアップしてあげるか、空いている所をどうやって埋めてあげるか、そこでもがき苦しんでいるのが今の商店街という状況です。

(高木会長)

私は霞ヶ浦総合公園に良く行くのですけれども、ものすごく混んでいます。土日は。結構駐車場が多いんですけれどもほぼ満車で停められないですね。それで皆さんは芝生の所に簡易テントを置いて子供たちを遊ばせながらアイスデリバリーやツェッペリン号のおじちゃんがいたりとか色々あるので非常に多くの方が利用しています。

いつも思うのですが、こんなに混んでいるのにこの流れが街中に行かないというのがもった

いないかなと思います。話は違いますが霞ヶ浦がありますが、霞ヶ浦だけを見ても絶対意見は出ないです。森林や山陽部から水が川を通して流れてきますので、全てを総合的に考えないと、絶対まとまらないと思います。街中だけを考えると、いつまでも同じ傾向が続くのかなと思いますので、エリアを総合的に考えてできるといいかなという気持ちがあります。

(佐藤委員)

今お話があったように、イオンにはかなりの数が集まっている。何故集まっているかというお店がいっぱいあるからじゃなくて、色んな催しがあって行ったら楽しいんじゃないかというところで行ってついでに買い物をしようということだと思うんですよ。中心市街地になにかあれば人が集まる。人が集まれば店を出そうかなという人も来るんじゃないかなと、また、店を先にとっても今魅力が無いのに店を出す人はいないので、そこを市として段取り良く計画、実行していくことが一番大事だと思います。

(池田委員)

自分のところは農業団体なんですけども、農産物の直売所店舗などでお客さんがコンスタントにいらっしゃって、小岩田の店舗でもそれなりに集客があります。それと今所有地を開放してヨガ教室を行っているのですけれども、昼間でも結構人が集まって、他にも結構やっている所あると思うのですが、火曜日をずっと定期的に開放するという形をやりだしたら、決まると人は寄ってくるんですよ。おいしいものを食べるには、おいしく食べる体作りをしなければという健康な体づくりしておかないと、おいしいものは食べられないだろうというような無理やりなこじつけで、とりあえず自分の体も調子悪かったので、そういう健康に気を付けるようなことかですね、中心市街地にはそういうスタジオとかが作れるんだと思うんですよ。結構平日でも人は集まってきていますので、そういうところが期待できると思ってます。

(川野委員)

土浦駅では、ゴールデンウィーク含めてですね4月28日から5月7日の東日本の特急とか新幹線の乗降者数をコロナ前の2018年度比で見ると91%、前年比で見ると140%という数値が出ました。というのはコロナ禍の3年間で、繁忙期といわれるところで初めて9割を記録したのは今回初めて。ということは着実に駅を利用されるお客様も増えてきているということです。この流れというのはコロナも季節性インフルエンザと同様の5類に変わってお客様も動き出すという時なので、こういう時に少しでも賑わいというか駅の賑わい、お客様の集まる場所が駅を起点にサイクリストも含めて若者も含めて魅力あるもの。例えば駅前で土日に何かイベントやってるとか、必ず行けば何かやっているというような、駅を中心に何かイベントが開催されると賑わいが創出されるのかなということと、駅を降りたときにアトレさんがあって、BEB5さんがあって、なんとなく駅を通じたその辺の賑わいってのはあるんですね。ただそこから一歩踏み出すと人が歩いていないですね。お昼を見ても仕事が始まってしまうと、特に平日は人がまちを歩いていない。夜は飲み屋さんなんか活発になってきて、人が増えているという状況なので、活性化させるというところでは、まちおこしを考えるなら、例えば屋台を出して日曜日は朝市をやるとかまちを歩いていただくような取り組みがあると、例えばサイクリストでも霞ヶ浦を回る、つくばを回るというお客さんも帰りに出店に寄っていただく。ついでに商店街を見て回ってもらうストーリー的なもの。モール505もこの間霞ヶ浦マラソンでランナーズビレッジ開催していましたが、あのようなイベントがあると家族で来ようか、観光で来た人がちょっと見てみようかなと思うきっかけにはなると思いました。

以前下館駅長をしていた時は水戸線の活性化というか筑西の活性化で、るるぶの発行でまち



を紹介する取り組みをやらせていただきまして、市内の見どころとかまちの周辺の魅力ある所とか、お勧めのラーメン屋さんとかそういった所を紹介するものを作って表に出すという取り組みをした経験がありますので、本気でやるならまちぐるみで皆が協力して一つにならないと、なかなか進まないかなと思います。

(横山委員)

川野駅長がおっしゃったように、活性が無いというか土浦はイベントだけをやってしまって、そのまま終わりとか多々あるものですから、それが継続的にいかないと人は寄り付かないのではと思います。キララちゃんバスもゴールデンウィーク中の乗車率について正式に調整はしていませんが結構乗客は乗られていたということで、人が来ていることは来ているようです。ただそれが、どこで降りてどこに行つて、どういう行動取ったかというまでは把握していませんが、まちづくり活性化土浦でもバスの3コースごとのマップを作らせてもらっています。ここで降りるとこういうものがありますよとか示してあるものです。それをバスに乗せて公共機関や駅のほうにも置かせていただいております、これをまちのガイドブックにしていればと考えております。

また去年はランチマップというのを作らせていただきまして好評のうちになくなってしまったという状況でした。結構サイクリングに来られた方々がランチマップを見られることが多いですし、平日、土浦に来た方が駅前などで食べたら良いかわからなくて、これを利用される方も多いということでかなり増刷を繰り返しており、今はバージョンアップバージョンを作っています。そういうアイテムがあれば見る方が多いというのは、はっきりしていると思います。

とにかく先ほどもありましたけども、土浦駅に何か作らないとか、「何か」というお話がありますけどもその「何か」が一番大切なのでその何かを考えるのが、ここに集まっている私たちなのではないかと思えます。それに対して採算性が合わないとか企業がでて行ってしまいますし、採算性が合えばそのまま企業さんは継続的にやっていただけるし、それに対して誰が協力するのかというと土浦市民がですね、それに同調して一緒にやらないと、中心市街地の活性化は必ず成功しないのではないかと思えます。週末だけ人が来るのではなく、平日も人が来る。それは誰が来るのかというと土浦市民が来ていただけるような、中心市街地の人だけでなくその周りの市民の方々もきていただけるような新しいものを考えなければいけないと思えます。私も一生懸命頑張らせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

(清水委員)

交通インフラの話ですね。車に乗った瞬間にイオンやつくばに行ってしまうというのが現実です。土浦市外から来る方が車をどこに停めるのに困ったりします。実は駅周辺に駐車場はたくさんあるのですが、わかっている人はわかっているのですが、意外と迷うんです。そういう意味では駐車場一つ整備するだけでも来やすくなるのではないかなと思います。ただ来やすくしただけではしょうがないので、土浦に行けば毎週土曜日はこのようなイベントがやっている。例えば先ほど出た屋台とかですね。毎週やるというような決め事のあるイベントをやるとか、年に何回か行われる大きなイベントの一つで霞ヶ浦マラソン、それをその日だけやるのではなくて、少し広げたイベントにするということ。今も当然やっているのですが、花火大会はその日だけじゃなくて、開催から一か月くらい遡っていろんなイベントをまちなかに取り入れていっていくと、違ってくるのかなと思います。

話しは変わりますが、ひたちなか海浜公園は1年中賑わっているわけではありませんね。ある時期に賑わっているイメージがあって、そのイメージに引っ張られて平日や休日にも色んな

方々がいらっしゃっています。そういう意味では土浦市の中心市街地についてインパクトがあって記憶に残るような仕組みのイベントを作られると、まちの盛り上がりが変わっていくと思います。先ほどもお話しにあったように、まずは何ができるかということが非常に大事だと思います。

(塚原委員)

青年部を代表して出席させていただいておりますが、青年部としましてはエネルギーが有り余っている団体でございますので、賑わいの創出ですとかそういった所が我々としては着手しやすい所なのかなと、交流人口を増やすところから着手していくのが手段としては早いのかなと思います。ただし、出店に関するルールですとか定款ですとかパッケージ化することによって、さまざまな団体の方が少しでも多くの場所をうまく利用した形でイベントなんかをやっていただけるのではないかなとは思っております。

やはりコロナ禍の学びとしまして、なるべく市内から出ない自粛しているという中でやはり通常ですと私たちお休みの日はつくばの方に遊びに行き、何となく用事の無い買い物をして帰ってくるというのが日常なのじゃないかなと思うのですが、なるべくこのまちからお休みの日は出ない、そしてお休みの日は必ずイベントがやっているというような状況があることが非常に望ましいと思うと同時に、私たちはよく出張に行くのですが、茨城県というか土浦というイベントやっていると発信が、非常に弱いかなと思います。よく他の地方のビジネスホテルに泊まりましてテレビをつけると、その地方のキー局が必ず隅々までイベント情報を放送しています。ですが土浦に来るとやはり、民放の8チャンネルとか選局してたりとかで他の情報しか得られない、一番大事な地元の情報がなかなか得られないというところでは、例えばパブリックな場所でデジタルサイネージの設置で情報を発信していくとかすることが、やりやすいのかなと思います。ただお金がかかる問題ですので、なかなかすぐにはできるものではないかもしれませんが、まずは定住人口というか交流人口を増やしていくことが青年部としては大事なかなと思っております。

(内村委員)

私は土浦に来る前は筑西にいまして今は水海道にいます。色んな自治体のさまざまな機能とかを見てきましたが、先ほどお話があったように朝市とか、そういった取り組みをしていって人を呼ぶということも一つですし、あと今土浦の駅前から徒歩では遠いですけども何かの交通手段はやはりこれから電動モビリティ、いわゆるキックボードだったり免許の問題が撤廃されたり、そういったこともありますし、西口にそういった移動手段がもしあればですね、それを使ってまちなかを巡ったりすることができるのかなと思いますので、そういった新しいものを取り入れていけたらいいのかなと思っております。

(石田委員)

いつも思うんですけど、大徳さんの前の広場、まちのなかにあれだけの大きな広場があって、あれは無駄だと思うんですね。あそこでもっと継続的なものを毎月やったりとか、日曜になれば何かやっているとか、そういう感じに何か使われればいいんじゃないかと思うんですね。あれだけの広場なのにもったいないかなと。

それと私中心市街地に住んでいるんですけど土日ってわりと駅なんかには人が来ているんですね。だけど行く場所が無くて、食事する場所も無くて、若い人なんか迷ってるんじゃないかと思うんですね。だからそのために土日とかにあの広場で例えば屋台とか継続的にやっていたらいいんじゃないかなと思います。

それから、新たに土浦市に居住される方が増えましたよね。そういった方々が土浦市のまちの中に何を望んでいるか、そういうことを聞く機会なんかも設けたらいいなど、またこういう会は若い人が少ないから、若い、新しい人たちが土浦市に対してどういうことを求めているのか、そういうのを聞く機会があればいいんじゃないかなと思いました。

(中川会長)

ご意見は尽きないと思いますが、時間もございますので最新のフォローアップに関する協議会意見については、ただいまの皆様のご意見を参考にしながら提出してまいりたいと存じます。内閣府の報告期限も迫っておりますので、修正については私にご一任いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

異議なしの声

(中川会長)

ありがとうございます。

それではご一任いただくということで修正して提出してまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

(中川会長)

続きまして、土浦市では中心市街地活性化基本計画の3期計画を策定し、総理大臣任天を目指すとしております。このことについて、土浦市から説明を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(3) 第3期中心市街地活性化基本計画の策定について

第2期計画が令和元年度から令和5年度までとなっており、本年最終年度を迎えるにあたり、第3期中心市街地活性化基本計画の策定をすることになっていることから、資料⑤に基づき次の通り説明した。

(藤澤主幹)

「計画策定の趣旨」

平成26年3月、平成31年3月にそれぞれ土浦市中心市街地活性化基本計画が国の認定を受け、「人がまちにすまう」、「人がまちをいきかう」、「人がまちをつくる」を基本的方針とし、図書館・ギャラリーを核とした土浦駅前北地区市街地再開発事業やりんりんポート土浦の整備、サイクリング事業によるサイクリストの中心市街地への誘導等を行いながら、中心市街地活性化を図ってまいりました。また、そうした取り組みにより、土浦駅周辺の利便性が向上したことを受け、駅周辺には複数のマンションが建設され、中心市街地の人口の増加等も期待されているところです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響に伴い、進捗が停滞する事業もあり、一部の目標指標の達成は難しい状況にあります。今後はアフターコロナを見据え、中心市街地のにぎわいの回復とさらなる活性化を図るため、中心市街地の状況の変化に対応した第3期中心市街地活性化基本計画を策定し、県南地域における拠点として、多くの人々が集い交流し、人々が生き生きと安心して楽しく暮らせる良好な中心市街地の形成を目指すものです。

- 1) 名称：第3期土浦市中心市街地活性化基本計画
- 2) 策定期間：令和5年度
- 3) 計画期間：令和6年度から令和10年度

「資料⑤第3期中心市街地活性化基本計画の策定について」

○策定体制

土浦市中心市街地活性化基本計画庁内推進会議での策定に向けた意見協議を外部有識者で構成される土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会に諮っていく。その内容について土浦市中心市街地活性化協議会からの意見を聴取して基本計画を作っていく。

国への計画提出は12月初旬を目途に実施し、内閣総理大臣の認定を目指す予定。

○計画策定スケジュール

庁内検討委員会、策定委員会は土浦市で実施する会議。中心市街地活性化協議会スケジュールは、5月、8月、11月とし、11月は認定に向けた計画に対して意見を聴取する。

○第3期計画実施事業（案）

市街地の整備改善のための事業としての3期計画事業No.9 中心市街地まちなか再生整備事業について、現在中央1丁目地区方々と交流拠点について推進中の中央1丁目地区まちづくり推進事業（2期計画事業No.12）とまちなか子育て支援事業（都市福利施設を整備する事業としての2期計画事業No.15）から名称を変更して実施する。

居住環境の向上のための事業としての2期計画事業No.18・No.19 まちなか定住促進事業について、名称を変更し制度の拡充を検討中。

経済活力の向上のための事業としての2期計画事業No.43 土浦歴史探訪AR活用事業について、最新技術のARを駆使しまちなかを楽しんでもらう事業だが、実施内容について検討中で3期計画掲載については掲載を検討中。

3期計画事業No.59 土浦ITオフィス環境整備事業について、2期計画においても実施していたが名称を付しての計画を予定している。

3期計画事業No.60 川口運動公園活用推進事業について、電光掲示板のLED化による講演の利活用を促進する予定。

（中川会長）

ただ今の説明に関して、皆様からご意見、ご質問いただきたいと存じますが、何かございますか。

（平元土浦都市開発㈱総務部長）

霞ヶ浦周遊サイクリングや霞ヶ浦マラソンに何度かお邪魔したことがあるんですけど、今年の2月に土浦都市開発㈱にお世話になっておりますが、駅前を見ていて感じることは、土浦市は人を呼ぶ材料的なものは非常に恵まれているというのが実感です。ただあまりにもたくさんありすぎて、もう少し選択と集中とか何かを柱にし、それを中心にしてやるというか、イベントなどを継続的にやって次はいつやるんだとか思わせることが賑わいに繋がるのかなと感じております。

あと茨城県全体に言えることですが、PRが下手ということもありまして、他県の色んな所に行くんですけども、今はメールとかインスタとかそういったものを活用して、何かに興味がある人を呼び込んで定期的にPRしていくとかいう方法が取られている所があるようですので、ホームページばかりではなくて、スマホを活用したPRができると良いと思います。

あと、駅前のアルカスのイベントスペースなんですけども、今日もキッチンカーが出ておりますし明日も出ます。他にも明日アルカスに出たいという方がいらしてるんですけども、最近若い方でキッチンカーを出したいという方が大変増えてます。ただキッチンカーを出していただいているんですけども人通りが少なくってですね、売り上げがなかなか上がらないということで可哀

そうなんですけども、若い人たちは駅前で何か事業を行いたいという方がいるので、何かあそこを人が通るようなですね、人が来る何かがあるとキッチンカーが必要となり賑わうと思いますので点でイベントを実施するのではなくて、線で実施していくことが良いかと感じています。

(竹中委員)

二つありまして、一つは計画の中で、住人というか地域の方に丁寧に説明をしていただきたいと思います。もう一つは先ほどありましたように、点を線にするというところで中城通りの霞月楼さんという料亭さんですが、今非常に好評でクラブツーリズムの大きなバスが次から次へ来ております。私は途中で降ろしていただいてまちなかを歩いてねと頼んで歩いてもらっているんですが、まずお昼をここで食べてからひたちなか海浜公園へ行くんだとか言われてて、びっくりするほど人が来ています。

もう一つ霞月楼さんでの大きな茶会が開かれているんですが年に何回か開かれてて駐車場もいっぱいになっていまして、朝から人がまちの中を歩いています。あと保立さん若い方がたくさん食べにいらっシャっているというのもあります。点でなくて何かの触媒を加えて線に結び付けていただけたらなと思っています。

(永井委員)

霞ヶ浦の利用というところで、川口二丁目の再開発をどうしていくかとかその辺を絞ってってという所と、市街地の中央1丁目を中心市街地まちなか再生整備事業ということで、昔のまちなかであったりとその辺を絞って進めていけたら良いと感じました。

(寺田委員)

たまにタクシーを運転するんですが、たまたま先日つくばに行きまして、つくばを回って土浦に帰ってきて夜景を見まして、つくばのほうは夜景が大変魅力的に映りまして、滝田地区とか景色が良い所がありますけども、つくばの場合は、人が集まる所がそこそこ点在しています。皆さんはその情報を入手しながらわざわざそこにタクシーを利用したりして行くわけですね。土浦の中心市街地だと出張に来た人がタクシーを利用します。そしてランチの場所はありませんかとか聞かれるのですが、なかなか無いわけでごさいまして、そういった意味では先ほども点から線というお話がありましたけれども、そういうものがあれば私どもも助かりますし、まちとしても賑わうと思います。

まあ、中心市街地の人たちが主に集まっていると思うんですが、その周辺の神立だったり右掬であったりという方々の意見を聞ければ、活性化の糸口が見えてくるのではという思いがございまして。

(中川会長)

ご意見ありがとうございました。協議としては以上で終わらせていただきます、最後に茨城県産業戦略部中小企業課経営支援室の高橋室長からオブザーバーとしてのコメントをいただきたいと思います。

(高橋オブザーバー)

オブザーバーとしてですが、皆様非常に熱心な意見を聞きまして勉強になりました。中心市街地の活性化は非常に苦勞しているということで、いかに交流人口を増やしてくかが課題であると思っています。今回土浦市の第2期計画のフォローアップを見ましても、3項目の目標のうちの一つである「休日のにぎわい創出」が達成されていませんが、他の2項目は達成され

ているということで、いかに人に来てもらうかという所が非常に重要になっていると思います。

土浦市さんは、そういう面で見ますと何もない中心市街地というのは語弊があるかもしれませんが、霞ヶ浦はありますし亀城公園を中心とした歴史的な裏付けもありますし、老舗のお店や新規出店者もいるというところで、何も無いわけではなくて活性化の起爆剤になるものが既に揃っていると思いますので、それをいかに点から線に繋げていって市民を巻き込んでいくかということだと思います。

まあこれは非常に悩ましいところだと思いますが、やはり若い人を巻き込んで何かをやるというか、先ほど篠委員さんからもありましたが、最近は特においしいものがあると人も来るということで、飲食系をベースにしたりとか、そういったものを開発できればそれを SNS などととにかく情報を発信していくということが非常に大事だと思います。

県でも二人ほど YOUTUBE で県内の観光地を体験してみたというので、実際に体験した動画をアップしているようなことがあります、とにかく良いものがあっても外に伝えないとどうしようもないということで、スマホ対応の時代でもありますのでそういったものに流して発信していくということを継続していくことが非常に重要だと思います。

次年度計画を含めましても現在の取り組みをベースにして、皆さんのご意見を活かしながらですね計画していけば、将来的には活性化に繋がると思いますので、県としましても支援してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(中川会長)

高橋室長、貴重なご意見ありがとうございました。

皆さんの熱心なご意見をいただきまして、予定の 90 分という時間が参りましたのでよろしければこれで本会議を終了したいと思います、よろしいでしょうか。

本年度は、第 2 期基本計画最後であり、来年度からの第 3 期基本計画策定の年度でございます。その経過を報告していただく場面を設けたいと思っています。

機会を捉えて、会議を開催いたしますので皆様のご協力をお願いいたします。

以上をもちまして、本日の協議会を閉会いたします。長時間ありがとうございました。